

文芸 ご担当者様

2月下旬発売予定

コトニ社

保坂和志さん(小説家)推薦!!

『私は福田さんの詩の響き・音調が好きだ』
『内面の奥の、深い、静かなところに騒音が満ちている』
『この騒音的な音調が私をワクワクさせる』
『この人は、波が碎ける岩場に立って海に向かって大声で叫んでいるのだ』 (本書「解説(保坂和志)」より一部抜粋)

第56回歴程賞(島崎藤村を記念して創設された文学賞)を受賞した才氣あふれる詩人が、日本語の「可能性」と「自由」を新しい段階へと引き上げる、最新詩集。

福田拓也 著
保坂和志 解説
DEATHか裸

〈本書収録 保坂和志さんの解説 冒頭 606 文字〉と〈その原稿〉

私はこの本を読み出して、困った、私にいったい何が言えるんだと思った。だいたい私はこの詩群を最後まで通して読んでいいのか、何も手がかりがないじゃないか……と困りつつ行に沿って目を動かしていると、二〇一八年の『惑星のハウスダスト』のときもそうだった、いつのまにか私はいろんなことを考えている、というかいろんなことが私の頭なんか体なのか、とにかく私が私と思っているものに去来していることに気がついた。

私は詩に関してはまったくの門外漢だが福田さんの詩を読んでいる私は小説家でさえもない。私は文学にたずさわる仕事をしているとかそういうことと関係ないところで詩の行に目を走らせてはいる。私はいつも考えている人間のこと、世界のこと、言葉のことを読みながら考えているというかそれへの刺激を浴びている。人間の解体、主体の解体、それと同じことだという予感とともに考えている人間の不死性、存在の不滅について、ここには理屈も言い訳も持たない言葉の連なりがある。

私は福田さんの詩の響き・音調が好きだ。福田さんの詩はまったく内省的でない、これらの詩には詩と思って教えてきた情緒・情感がない、内省的なことや情緒的なことは私が大嫌いなものだ。福田さんの詩が内省的でないのは福田さんは内に向かうと破裂して空へ宇宙へと肉が星になつて碎け散ってしまうからだ、内面の奥の、深い、静かなところに騒音が満ちている。この騒音的な音調が私をワクワクさせる。(……)

福田拓也
(フクダタクヤ)

詩人、文芸評論家。パリ第8大学大学院博士課程修了。文学博士(パリ第8大学)。専攻、20世紀フランス詩。第32回現代詩手帳賞、第56回歴程賞受賞。現在、東洋大学教授。主な著書に、『「日本」の起源』(2017、水声社)、『倭人伝断片』(2017、思潮社)、『惑星のハウスダスト』(2018、水声社)、『エリュアールの自動記述』(2018、水声社)など。

日販・トーハン・楽天 BN・中央社・日教販・八木書店など
すべての取次番線でご注文いただけます。ご返品承ります。

貴店印

ご担当 様

DEATHか裸

福田拓也=著
保坂和志=解説

■造本: 四六判変型・並製

■頁数: 152 頁

■定価: 本体 2,500 円+税

■ISBN: 978-4-910108-08-7

コトニ社 千葉県船橋市前原東 5-45-1-518 ご注文 FAX: 043-330-4933
TEL * 090-7518-8826(後藤) (コトニ社/後藤)

コトニ社